

感染はしか 市立小の報告遅れる 瀬谷区センターも調査遅れ

横浜市瀬谷区の市立小学校で2月上旬、3人の兄弟がはしか(麻疹)に感染したにもかかわらず学校が約2週間、市教育委員会に報告していなかったことが15日、分かった。医療機関から連絡を受けた区福祉保健センターも2月19日まで学校を調査するなどの対応をとらず、同級生2人に感染が広がった。田村幸久教育長は市議会委員会で「連携がとれなかった。強く反省している」と謝罪した。

国のガイドラインや市の対策マニュアルは1人でもはしかと診断された場合、他の児童の健康調査など情報を収集した上で、学校と保健所が連携して拡大防止策を講じる必要があると定めている。

市教委によると、医療機関で受診した兄弟の児童がはしかと判明、医療機関が2月4日、区福祉保健センターに届けた。センターは学校に電話連絡したが、学校は市教委に伝えなかった。

児童は前後して学校を休んだが、同級生2人にはしかが感染した。感染拡大のため早急な調査が義務づけられているにもかかわらず、福祉保健センターと市保健所が学校に調査に入ったのは2週間以上たった2月19日だった。学校側も同日、ようやく市教委に連絡。瀬谷区の危機管理担当者3月まで事実も把握して

いなかったという。

15日の市議会で加納重雄市議は「あまりにひどい対応。区もセンターも学校も、事態の重要さを何も理解していない」と指摘した。田村教育長は「学校の対応は遺憾。もう一度、関係者に徹底したい」。山田正人副市長も「問題の背景を調べて改善を図りたい」と謝った。(佐藤善一)